

次期農林水産業元気再生戦略における基本戦略の取組方向(たたき台)

戦略① 担い手の育成・確保

新規就農者のさらなる育成・確保や地域農業を牽引するトップランナー等の育成の加速化、多様な人材が活躍できる農業経営の実現を目指していく。

1 人材の育成・確保

～意欲ある新規就農者の育成・確保と地域農業を支える多様な人材の確保～

(1) 取組方向

- ◇新規就農希望者の就農意欲を喚起するため、県内農業経営の成功事例の情報発信を強化
- ◇新規就農者の動機付けから就農準備、就農初期、その後の定着まで、各段階に応じた政府及び本県独自の支援策を展開
 - ・県内外での就農相談会による就農意欲喚起と雇用就農のマッチング
 - ・幅広い年齢層に対応した研修実施及び定着のための普及機関等によるサポート
- ◇地域の農業者と市町村、JA等が主体となって新規就農者を受け入れ、栽培の技術指導や農地の確保、住宅支援など就農希望者が安心して就農できる「地域の担い手は地域で育てる」取組みを県内各地で展開
- ◇定年帰農者等の多様な担い手に対応した就農支援策の展開
- ◇雇用就農希望者の受け皿としても期待できる異業種からの新規農業参入を推進
- ◇中山間地域等における営農継続に向けた集落営農の組織化を促進
- ◇将来の地域農業をリードする役割を担う女性農業者の経営力向上を支援
- ◇農作業の繁忙期に労働力を確保するためのモデル的な体制整備と農福連携による障がい者の雇用・就労の取組み等を推進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
新たな担い手育成確保支援プロジェクト	地域の実情にあわせた新規就農者の確保・定着のため、政府及び本県独自の施策を活用したプログラムの実践に取り組む。 ①農業経営成功事例情報発信強化PJ、②新規就農者育成・確保対策PJ、③「地域の担い手は地域で育てる」取組推進PJ、④農林大学校機能向上PJ、⑤異業種参入支援PJ、⑥集落営農組織化対策PJ
輝くアグリウーマン育成プロジェクト	農産物の生産現場において女性が活躍できる環境をつくるなど、農業分野における女性の活躍を促進する。 ①アグリウーマン塾運営PJ、②アグリウーマン優良事例発信PJ、③女性農業者の作業環境改善PJ
農業労働力確保プロジェクト	農業経営を支える労働力確保のための地域推進体制の整備とモデル的な対策を推進する。 ①労働力確保対策PJ、②さくらんぼ労働力確保PJ【関連】

2 経営体育成

～地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成～

(1) 取組方向

- ◇水稻を主体とした経営体では、規模拡大やスケールメリットを活かした低コスト化を目指す組織経営体を中心としたトップランナーの育成、園芸作物等の労働集約型の経営体では、生産性向上やブランド化等による販売価格の向上を図りながら、家族経営体を中心としたトップランナーの経営発展を支援
 - ・トップランナーを目指す意欲ある中堅農家の経営発展を後押しする、施設整備や機械導入等に対するオーダーメイド型支援
 - ・普及組織等の生産技術指導と一体となった経営指導による収益性向上支援
 - ・米政策改革等を踏まえた営農計画策定に必要な経営指標の作成・提供
- ◇トップランナーの中でも、地域に雇用を産み出し、経営力や生産力が高く、先端技術を積極的に導入

する次代を担うスーパートップランナーの育成を推進

・「やまがた農業経営塾(仮称)」を創設し、専門家による経営・生産・販売・労務管理の体系的な講義や経営発展に向けたビジネスプラン作成の指導など経営をマネジメントできる人材の育成

◇行政、農業団体、金融機関、専門家等が連携した支援体制の構築により、経営発展に意欲的な農業者を対象に、企業会計の基礎研修から事業計画策定のための実務研修、さらには、経営発展のためのアドバイザー派遣など、きめ細やかな支援による経営力強化を推進

◇人・農地プランをベースとして、農地中間管理事業の活用による担い手への農地の集積・集約化を推進

◇農業青年・新規就農者等のネットワーク化による経営の発展、地域の活性化等を推進

◇ICT等の先端技術を活用した農業生産性向上などにつながる新技術の実証や導入を推進

・圃場・作物の能力を最大限に発揮するため、センシング技術や過去のデータの分析に基づいた適切な対応を可能とする「精密農業」の導入

・経験の浅い者や作業に不慣れな女性などでも高度な技術が利用可能となる「匠の技」のデータ化・形式知化や農業機械のアシスト装置等の導入

・高精度なGPSによる自動走行システム等の導入やアシストスーツによる重労働となる作業の軽労化、除草・水管理などの負担の大きな作業の自動化を推進

◇やまがたアグリネットのICT等の先端技術の情報充実や情報発信力の強化

◇農業経営の安定化を図るため、自然災害による農作物等被害の拡大防止及び生産の維持確保等を支援するとともに、農業共済制度への加入を促進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
農業トップランナー育成・発展プロジェクト	地域農業を牽引し、生産力・収益性の高い「トップランナー」の育成・発展に取り組む。 ①農業経営成功事例情報発信強化PJ【関連】、②トップランナー育成支援PJ、③スーパートップランナー育成支援PJ
農業経営力向上支援プロジェクト	経営発展に意欲的な農業経営体の法人化・経営力強化を推進する。 ①農業経営力強化PJ、②農林大学校機能向上PJ【関連】
担い手農地集積・集約化促進プロジェクト	農地中間管理事業の活用促進により、担い手への農地の集積・集約化を推進する。 ①農地中間管理機構活用促進PJ、②中山間地域・条件不利地の農地集積促進PJ、③農地利用の最適化推進PJ
農業者ネットワーク化支援プロジェクト	目的や地域別の農業者のネットワーク化により相互研鑽を促進し、意欲ある農業者の自立・発展を支援する。 ①認定農業者組織活性化PJ、②やまがた元気な農業チャレンジネットワークPJ
スマート農業の実現に向けた導入推進プロジェクト	ICT等の先端技術を活用した農業生産性の向上などに繋がる新技術の実証や導入を促進する。 ①生産性向上スマート農業PJ、②誰もが取り組みやすいスマート農業PJ、③超省力・軽労化スマート農業PJ
農業情報発信力強化プロジェクト	農業者や消費者に向けた農業情報の充実強化に取り組む。 ①ICT等先端技術情報発信充実強化PJ、②あぐりん利用促進PJ
農業災害等に強い農業経営支援プロジェクト	気象災害や価格変動に対応できる農業経営を支援する。また、農作業事故防止に取り組む。 ①農業災害対策強化PJ、②農作業安全対策PJ

3 地域活性化

～地域資源をフルに活用した多様なスモールビジネスによる所得確保と活力ある地域づくり～

(1) 取組方向

◇中山間地域等直接支払交付金の活用を推進するとともに、中山間地域における持続的な農地保全を図るため、政府の支援制度が行き届かない地域等を対象とした県独自施策による支援の推進

◇中山間地域等の持続的な営農、農地や環境の保全を通じた多面的機能の維持・発揮に向け、多面的機能支払や中山間地域等直接支払を活用した支援を推進

◇地域での話し合い・合意形成を促進させ、地域内におけるビジネス化や地域ぐるみ活動を推進

- ・再生産可能な所得確保に向け、地域資源を活用した多様なスモールビジネスの創出
 - ・中山間地域の多様な農産物を始めとしたプロダクツや地域資源を連動させ、観光誘客や付加価値の高い販売を実現する魅力ある地域農業づくりを推進
- ◇地域の合意形成を促進するワークショップの開催支援や地域マネジメント手法等を習得した地域リーダーづくりの実施、地域づくりの一翼を担う外部から人材確保策の検討・実施
- ◇鳥獣被害を防ぐ侵入防止柵の設置等への支援とともに、地域の主体的な鳥獣被害防止活動を推進するための人材育成
- ◇適作作物である山菜・きのこのブランド化戦略に基づき、「山形県産の山菜・きのこは日本一」との評価獲得（認知度、知名度など）を目指し、生産振興から加工、流通・販売対策まで施策を総合的に推進
- 【関連】

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
中山間地域持続的農地保全推進プロジェクト	傾斜地など条件不利地域の持続的な農地保全に向けて、地区住民を巻き込んで行う共同活動等の支援に取り組む。 ①中山間地域等農地保全PJ、②中山間地域振興基盤づくりPJ、③多面的機能の維持・共同活動支援PJ、④中山間地域・条件不利地の農地集積促進PJ 【関連】
中山間地域水田農業活性化プロジェクト	中山間地域等の条件不利地において、中心経営体の規模拡大を図り、生産コスト削減による稲作農業の再生産を可能にする。 ①中山間地域水田農業機械整備支援PJ
元気な地域づくり支援プロジェクト	地域資源をフル活用しながら、農林水産業を起点として地域活性化を目指す地域主体の取組みを県内各地で展開する。 ①元気な地域づくり支援活動PJ、②地域づくりリーダー育成・確保PJ、③中山間地域等所得向上スタートアップ支援事業
鳥獣被害防止対策プロジェクト	有害鳥獣被害防止対策の実施に向けた総合的な支援や、人材の養成等に取り組む。 ①鳥獣被害防止対策支援PJ、②鳥獣被害防止対策地域推進PJ
【関連プロジェクト】やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクト	生産・加工・流通販売まで総合的に推進することにより日本一の「山形ブランド」の定着に取り組む。 ①山菜・きのこ類の生産振興PJ【関連】、②山菜・きのこ流通販売・認知度向上PJ【関連】、③山菜・きのこによる観光・交流拡大PJ【関連】

戦略② 水田農業振興

県産米の総合的なブランド化、低コスト化等により、水田農業の競争力強化と収益性向上を目指していく。

4 土地利用型作物

～付加価値を産み出すブランド化と低コスト化による水田農業の収益性向上～

(1) 取組方向

[米]

- ◇「つや姫」の全国トップブランドとしての地位を確立するため、①販売及びコミュニケーション戦略に基づいた新たな販路開拓やCM等の展開、②中小規模の生産者等の新規栽培者への品質・食味の高位維持に向けた栽培技術指導を強化
- ◇「山形 112 号」のブランド化戦略に基づいた生産体制を構築し、平成 30 年の本格デビューやブランド確立に向けた効果的・効率的なイベントやキャンペーンを展開
- ◇県育成品種のラインナップ化を推進し、売れる米づくりのための品種構成への移行を促進
 - ・新品種「山形 95 号」を活用した地域ブランド化と中山間地域向け早生品種の現地実証と品種化
- ◇米づくり運動を核として、①単収・品質等の日本一を目指す取組みの強化、②直播栽培、大区画化や地下かんがい等による低コスト化を推進
- ◇大吟醸酒向け新品種「雪女神」等の県オリジナル酒米の県酒造組合と連携した清酒と酒米の全国ブランド展開

- ◇需要に応じた米生産のあり方を検討するとともに、飼料用米等の生産・利用の拡大、正確な米の作付面積把握のための統計かい離問題の解消を促進
- ◇水田農業の低コスト化に向けた、①農地の集積・集約化、②大区画化、③直播栽培や地下かんがい等省力化技術等の導入を推進【関連】

【飼料用米】

- ◇飼料用米生産の本作化に向けた体制整備の構築と多収専用品種「ふくひびき」等による安定的多収技術の普及

【大豆】

- ◇県産大豆の安定生産と評価向上に向けた、①「里のほほえみ」生産拡大のための種子供給体制整備、②新技術導入による大豆単収・品質の向上、③早生新品種「シュウリュウ」の普及拡大を推進
- ◇収益性向上に向けた、①実需ニーズに応える産地づくり、②儲かる大豆づくりを推進するため安定多収技術の実証、③契約栽培による安定価格取引のための実需者と生産者のマッチングを推進

【そば】

- ◇県産そばのブランド確立と知名度向上に向けた、①気象変動の影響を受けにくい栽培技術の実証、②産地条件に適するそば品種の作付け誘導と生産拡大を推進
- ◇実需者等と連携した新品種「山形そば5号」の普及拡大とブランド化を推進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
県産米ブランド化戦略プロジェクト	売れる米づくりに向けて、県産米の総合的なブランド化戦略を構築し、戦略に基づいた生産・流通・販売を展開する。 ①つや姫ブランド化戦略PJ、②山形112号ブランド化戦略PJ、③県産米の品質・評価向上PJ、④新品種「雪女神」等の酒米ブランド化PJ
需要に応じた米生産対策推進プロジェクト	行政による生産数量目標の配分廃止を見据え、需要に応じた米生産のあり方を検討するとともに、飼料用米等の生産・利用の拡大に取り組む。また、正確な米の作付面積把握のため、統計かい離の解消を図る。 ①飼料用米生産・利用拡大PJ、②直播等低コスト生産推進PJ、③需要に応じた米生産推進PJ、④統計かい離解消PJ
県産大豆評価向上・安定生産プロジェクト	県産大豆の評価向上に向けて「里のほほえみ」「シュウリュウ」の普及拡大、収量・品質の高位安定技術の定着を推進する。また、実需ニーズに応える大豆産地づくりを進める。 ①「里のほほえみ」「シュウリュウ」生産拡大・ブランド化PJ、②実需者ニーズに応える品種戦略PJ、③やまがた大豆産地評価向上PJ
県産そばブランド化推進プロジェクト	県産そばのブランド力向上のため、高品質安定生産技術の普及、優良種子の供給、実需者と連携した県産そばのPR及び「山形そば5号」のブランド化を展開する。 ①高収量・高品質安定化PJ、②優良品種の種子更新体制整備PJ、③県産そば知名度向上PJ、④「山形そば5号」ブランド化・普及拡大PJ
【関連プロジェクト】 水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト	水田農業の更なる低コスト化を実現するため、農地の集積・集約化や圃場の大区画化、地下かんがい等の水管理の省力化を推進する。 ①水田農業低コスト・省力化基盤整備推進PJ【関連】、②農地集積・集約化促進PJ【関連】
【関連プロジェクト】 中山間地域水田農業活性化プロジェクト	中山間地域等の条件不利地において、中心経営体の規模拡大を図り、生産コスト削減による稲作農業の再生産を可能にする。 ①中山間地域水田農業機械整備支援PJ【関連】

5 生産基盤

～水田農業の競争力強化と持続的発展のための生産基盤整備～

(1) 取組方向

- ◇米政策の改革を見据え、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水改良・地下かんがい等)を推進するとともに、産地形成に向けた園芸作物の導入の加速化を推進
- ◇水田農業の低コスト化に向けた、①推進農地の集積・集約化、②大区画化、③直播栽培や地下かんがい等省力化技術等の導入を推進
- ◇農業水利施設の機能を将来にわたって安定的に発揮するため、施設の長寿命化とライフサイクルコス

- ト低減を図る効率的な保全管理のほか、農業用ため池等の機能強化による被害未然防止を図るとともに、ソフト・ハードを組み合わせた防災減災対策による災害リスクの軽減を推進
- ◇農業水利施設の維持管理費の軽減やエネルギーの農業利用に向けた農業水利施設を活用した小水力発電の導入を促進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
水田畑地化基盤強化プロジェクト	米政策の改革を見据え、水田の排水改良等の基盤整備とともに、水田転換畑への園芸作物の導入を加速化する。 ①水田の畑地利用推進PJ、②水田畑地化整備促進PJ
水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト	水田農業の更なる低コスト化を実現するため、農地の集積・集約化やほ場の大区画化、地下かんがい等の水管理の省力化を推進する。 ①水田農業低コスト・省力化基盤整備推進PJ、②農地集積・集約化促進PJ
農村インフラ機能保全プロジェクト	基幹的農業水利施設の長寿命化の推進や、ため池・用排水施設の防災減災対策に取り組む。 ①農業水利施設の長寿命化PJ、②ため池等の防災・減災対策PJ
再生可能エネルギー導入推進プロジェクト	農林水産業が持つ資源を活用した再生可能エネルギーの導入を促進する。 ①小水力発電導入促進PJ、②営農継続型太陽光発電評価・検証PJ、③収益性の高いバリューチェーン構築PJ【一部関連】、④木質バイオマス利用促進PJ【関連】、⑤木質バイオマス熱利用促進PJ【関連】

戦略③ 園芸振興

本県の強みである果樹のブランド力の強化や水田フル活用による大規模園芸団地化、次世代型施設園芸の導入により、園芸作物のさらなる拡大を目指していく。

6 果樹

～ブランド力のさらなる強化と次世代につなぐ果樹産地づくり～

(1) 取組方向

[果樹全般]

- ◇生産者の高齢化や担い手不足に対応するため、優良園地の円滑な継承、省力・軽労的な生産方式の技術導入を推進しながら、果樹栽培の大規模化・団地化を推進し、生産基盤の維持・強化を推進
- ◇気象変動に対応するための施設化の推進、高品質安定生産技術の定着、良食味など消費者が求める品質の果実出荷により、全国屈指の果樹産地としてのブランド力を強化
- ◇マーケットインの視点に立った消費者嗜好の高い品目、品種への更新や、県産果実の付加価値づくりに向けた加工品開発の取組みを推進

[さくらんぼ、西洋なし、ぶどう「シャインマスカット」]

- ◇市場評価の高い品目のブランド力を一層強化するため、高級果実専門店と連携したプレミアム商品の開発を推進

[さくらんぼ、りんご、もも、西洋なし]

- ◇国内の人口減少等による市場規模の縮小に対応するため、海外市場を視野に入れた取組みを強化し、特にさくらんぼでは、海外での競争力を高めるための大玉生産技術の開発、生産現場での普及を推進

[地域特産果樹]

- ◇地域の特性・気象条件等に合った多様な果樹(日本なし、すもも、かんきつ等)の導入やブランド化を推進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト	高品質安定生産と良品出荷を推進するとともに、省力・軽労化技術の開発と導入の推進や新興産地での産地化の推進に取り組む。 ①オール山形推進体制強化PJ、②産地基盤強化PJ、③さくらんぼ労働力確保PJ、④さくらんぼ加工利用促進PJ、⑤新興地域の産地化推進PJ、⑥さくらんぼ世界一PJ
西洋なし産地ブランド強化プロジェクト	「ラ・フランス」の食味重視の生産・出荷・販売や、ブランド化のための生産・販売活動を展開する。 ①「ラ・フランス」ブランド向上PJ、②新品種産地拡大PJ
りんご産地生産力強化プロジェクト	「ふじ」を中心として市場性の高い品種の生産拡大と、省力・軽労的な生産方式による園地の若返りを推進する。 ①戦略推進体制強化PJ、②りんご生産効率化PJ
ぶどう産地活性化プロジェクト	「シャインマスカット」の品質の高位平準化と戦略的な販売PR活動の展開による産地拡大とともに、ワイン用ぶどう等の省力的な栽培の導入により、産地を強化する。 ①「シャインマスカット」産地拡大PJ、②年末ギフト需要対応「シャインマスカット」ブランド化PJ、③ワイン用ぶどう等推進PJ、④赤系大粒ぶどう新品種開発PJ
「北の桃源郷ももづくり」産地化プロジェクト	有望晩生品種の栽培体系の確立や枯死対策技術の定着により、産地拡大に取り組む。 ①晩生もも産地化推進PJ、②樹体枯死対策推進PJ
特産果樹産地強化プロジェクト	地域特産果樹(柿、日本なし、すもも、かんきつ等)の産地強化への取組みを推進する。 ①柿産地強化PJ、②地域振興果樹の産地強化PJ

7 野菜

～次世代型施設園芸の導入と水田フル活用による野菜団地の集積加速化～

(1) 取組方向

- ◇日本一の産地確立を目指すえだまめ、トップブランドを誇る夏すいか、日本一の生産量を誇る促成山菜について、省力技術や機械(収穫機等)の導入による規模拡大を進めるとともに、選果施設を核とした産地基盤の強化等により強固な日本一産地づくりを推進
- ◇全国トップクラスを目指すトマトと土地利用型野菜(ねぎ、アスパラガス、にら)については、作型の拡大による収量の増加と省力機械化体系や集出荷施設の整備を推進し、産地規模の拡大と新たな産地化、産地基盤の強化を推進
- ◇産地の再生を目指すメロンやきゅうり、セルリー等については、施設化と団地化を進め、新たな栽培者の確保と育成を推進
- ◇次世代を見据えた施設園芸の展開に向け、地域資源エネルギーや ICT 等の先端技術を活用して、山形の条件に適応した大規模な施設園芸である次世代型施設園芸を推進
- ◇生産者の高齢化や担い手不足が進行する中で、園芸産地のさらなる拡大を図るため、意欲ある担い手による大規模経営等が集積する大規模園芸団地化を推進
- ◇米政策の改革を見据え、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水改良・地下かんがい等)を推進するとともに、産地形成に向けた園芸作物の導入の加速化を推進【関連】

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
やまがたブランド野菜日本一プロジェクト	えだまめ、促成山菜等の日本一を目指した産地づくりや強固な夏すいかの日本一産地づくり等を目指した産地基盤を強化する。 ①山形えだまめ日本一産地化PJ、②日本一夏すいかブランド強化PJ、③日本一促成山菜産地拡大PJ、④園芸作物栽培実証による産地形成・拡大PJ

やまがた野菜トップ産地形成プロジェクト	本県の強みを活かした品目で、出荷期の拡大による収量の増加と省力化により産地規模を拡大し、トップクラスの産地を目指す。 ①トマトトップ産地形成PJ、②土地利用型野菜(ねぎ、アスパラガス、にら)トップ産地形成PJ
やまがた野菜産地再生プロジェクト	産地規模が縮小傾向にあるメロンやきゅうり、セルリー等で栽培施設の導入と団地化を進め、新規栽培者の確保・育成を推進する。 ①メロン産地再生PJ、②きゅうり産地再生PJ、③地域野菜(セルリー、おかひじき、パプリカ等)産地再生PJ
やまがた次世代型施設園芸推進プロジェクト	次世代を担う意欲ある農業者の経営発展のため、先端技術やICT、地域資源エネルギー等を活用した次世代型施設による大規模施設園芸を推進する。 ①次世代園芸施設拠点づくりPJ、②次世代園芸施設の実証PJ
園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト	果樹、野菜・花きの産出額を飛躍的に向上させるため、本県の園芸振興をリードする大規模集積団地を整備し、産業として魅力のある園芸に主体的に取り組む経営体を育成する。 ①果樹大規模集積団地形成PJ、②野菜・花き大規模集積団地形成PJ
【関連プロジェクト】 水田畑地化基盤強化プロジェクト	米政策の改革を見据え、水田の排水改良等の基盤整備とともに、水田転換畑への園芸作物の導入を加速化する。 ①水田の畑地利用推進PJ【関連】、②水田畑地化整備促進PJ【関連】

8 花き

～水田フル活用による露地花きの拡大と施設花きの収益性向上～

(1) 取組方向

[土地利用型花き]

◇所得向上に向けた水田転換畑や遊休農地への露地花き品目の導入を推進

◇需要の拡大が見込まれるダリア等における水稻育苗ハウスを活用した出荷期間を図る新たな花き産地の育成

[施設花き]

◇生産性・品質の向上に向けた生産基盤の強化を支援するとともに、専門家の指導による経営の安定化。

◇施設の有効活用と省力、開花調節技術の導入による生産性と品質の向上を推進

[その他]

◇生産者と実需者が連携を強化し、県産花きの消費拡大や花育を推進するとともに、消費地でのPR活動による需要拡大

◇観光等と連携した紅花の活用による需要拡大や新たな活用を促進

◇米政策の改革を見据え、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水改良・地下かんがい等)を推進するとともに、産地形成に向けた園芸作物の導入の加速化を推進【関連】

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
土地利用型花き産地拡大プロジェクト	土地利用型花き品目を中心に、新規生産者と作付面積の増加による産地拡大に取り組む。 ①土地利用型花き(りんどう、花木等)産地拡大PJ、②水稻育苗ハウス等を活用した長期継続出荷産地育成PJ
施設花き生産性向上プロジェクト	施設花き品目を中心に、低コスト・省力生産技術、開花調節技術等の導入による生産性の向上と品質の向上により経営体の所得向上と産地強化に取り組む。 ①周年型施設花き(ばら、アルストロメリア等)経営体質強化PJ、②施設花き(トルコギキョウ、ストック等)産地強化PJ、③県産花き需要拡大PJ
【関連プロジェクト】 水田畑地化基盤強化プロジェクト	米政策の改革を見据え、水田の排水改良等の基盤整備とともに、水田転換畑への園芸作物の導入を加速化する。 ①水田の畑地利用推進PJ【関連】、②水田畑地化整備促進PJ【関連】

戦略④ 6次産業化・流通販売

6次産業化や農業と観光の連携等による新たな価値の創出、農産物等のブランド化や販路拡大により、県産農産物の競争力強化や所得向上を目指していく。

9 6次産業化

～新たな付加価値を創出する6次産業化のさらなる拡大～

(1) 取組方向

- ◇農林漁業者による6次産業化の推進に向け、①支援機関等による継続的な支援や施設整備等への支援、②若者や女性による地域内起業の促進とビジネスとして定着するための支援、③6次産業実践者のさらなる発展に向けた6次産業化商品の販売戦略の構築支援等による販路開拓・拡大を推進
- ◇農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化の推進に向け、①県産農林水産物の利用拡大に結びつく商品開発・マッチング等への支援、②食品卸売業大手等との連携強化等による商品開発や販路開拓・拡大を推進
- ◇地域の多様な主体が参加した6次産業化の推進に向け、①6次産業化ネットワーク形成の一層の促進、②農林漁業者が活用できる市町村やJA等が行う6次産業化拠点施設(直売所や加工所等)の整備等への支援、③多様な6次産業化拠点・関連施設等が集積・連動する「アグリランド」の創出を推進
- ◇6次産業化を推進するための基盤強化に向け、①人材育成、②相談・技術体制の充実、③6次産業化支援機関の更なる機能強化、④販路開拓・拡大の促進、⑤安定供給体制の整備を推進
- ◇本県の豊かな農林水産物と地域の特徴ある郷土料理、棚田など農山漁村の多様な資源を観光資源として磨き上げ、農と食による観光交流の拡大を推進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト	農林漁業者による6次産業化の推進に向けて、施設整備等への支援や、若者や女性による地域内起業の取組み等を推進する。 ①農林漁業者の6次産業化支援PJ、②農林水産業ウーマノミクスPJ
農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト	農林漁業者と食品製造業者等との連携による県産農林水産物利用拡大に結びつく商品開発等への支援や、食品卸売業大手等との連携強化等による商品開発や販路開拓・拡大を推進する。 ①食品製造業者等の技術力・商品開発力強化PJ、②6次産業化商品等販路開拓PJ、③地域土産品開発等推進PJ、④米粉・加工用米利用拡大PJ
地域の6次産業化プロジェクト	地域の多様な主体が参加した6次産業化ネットワークの形成を促進し、市町村等が行う6次産業化拠点施設整備等への支援や「アグリランド」等の創出に取り組む。 ①元気な地域づくり支援PJ【関連】、②アグリランド創出PJ、③市町村等による地域の6次産業化拠点整備PJ
6次産業化推進基盤確立プロジェクト	6次産業化を推進するための基盤となる人材育成と相談・技術体制の充実及び6次産業化支援機関の更なる機能強化等に取り組む。 ①6次産業化推進人材育成PJ、②6次産業化支援機関機能強化PJ、③食品加工支援チームによる支援PJ、④HACCP等認証促進PJ
農と食による観光交流拡大プロジェクト	本県の豊かな農林水産物と地域の特徴ある郷土料理等を観光資源とした、農と食による観光交流の拡大を推進する。 ①「食と農の景勝地」「日本農業遺産」認定促進PJ、②観光と連携した農家レストラン・農家民宿等受け入れ体制づくりPJ、③山菜・きのこによる観光・交流拡大PJ【関連】

10 流通販売・食文化発信

～価格競争に左右されない「山形ブランド」の創出・定着と輸出促進～

(1) 取組方向

[国内流通]

- ◇消費者の理解と共感を醸成するコミュニケーションの充実強化と「農林水産業が盛んな地域」や「雪国」

- などの産地イメージと結び付いた「山形ブランド」の全国への発信強化
- ◇さくらんぼや「つや姫」などに続く「日本一ブランド」を目指す農産物等の創生と、これら品目の競争優位性を一層高めるための生産・販売戦略による「山形ブランド」の定着・確立と商品化の促進
 - ◇新たな販路開拓に取り組んでいる生産者への需給マッチング支援と、主要な流通事業者等の販売ネットワーク等を活用した県産農産物等の販路拡大を促進
 - ◇首都圏以外の大消費地への県産農産物の販路拡大を促進
 - ◇食を通じた心身の健康と食を支えている農業への理解促進を図る食育の推進、地産地消の一層の拡大

[輸出]

- ◇本県食文化等の発信と併せた県産農産物・加工品の新たな海外市場の開拓・拡大
- ◇海外常設展示・販売拠点の設置やこれまでの人的つながりなどの海外ネットワーク活用等による、県産農産物・加工品の取引拡大と定番化に向けた取組みを促進
- ◇輸出に係る課題の整理や輸出可能性の検証等を踏まえた県産農産物の輸出拡大に向けた国別輸出アクションプランの策定及びその展開・強化
- ◇高付加価値農産物の小口輸送及びコスト削減に向けた大口輸送の確立や輸出手続きや販路開拓を一体的に行う地域商社的な機能を持つ体制の整備
- ◇2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「山形ブランド」の発信

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
「おいしい山形」流通戦略推進プロジェクト	<p>消費者の理解と共感を醸成するコミュニケーションの充実強化と「農林水産業が盛んな地域」の産地イメージと結び付いた「山形ブランド」の全国への発信強化に取り組む。</p> <p>①「おいしい山形」推進機構運営PJ、②「おいしい山形」魅力発信PJ、③消費者の理解度・共感度醸成PJ、④農林水産・観光・商工団体等との連携PJ</p>
県産農産物等販路拡大プロジェクト	<p>主要な流通事業者等の販売ネットワーク等を活用した大消費地への県産農産物等の販路拡大と有利販売に結びつく県産農産物等の鮮度・品質を保持した輸送体制の確立に取り組む。新たな販路開拓に取り組んでいる生産者への需給マッチング支援と、主要な流通事業者等の販売ネットワーク等を活用した県産農産物等の販路拡大に取り組む。</p> <p>①県産農産物市場流通ニーズ調査PJ、②県産農産物流通促進PJ、③食材提案による需要創出・販路開拓PJ、④直売所魅力向上・販売力強化PJ、⑤やまがた伝統野菜販売促進PJ、⑥高付加価値輸送体制確立PJ、⑦給食向け県産農産物利用拡大PJ【関連】、⑧NEXCO連携PJ、⑨オリ・パラ農林水産物利用PJ</p>
「山形ブランド」評価向上プロジェクト	<p>さくらんぼや「つや姫」などに続く「日本一ブランド」を目指す農産物等の創生と、これらが全体を牽引する「山形ブランド」の定着・確立に取り組む。</p> <p>①「食の至宝雪国やまがた伝統野菜」評価向上PJ、②「雪国やまがたブランド」構築PJ、③地理的表示(GI)登録促進PJ、④山菜・きのこ流通販売・認知度向上PJ【関連】</p>
食育・地産地消県民運動展開プロジェクト	<p>食育・地産地消の推進に資するため、食育・地産地消推進計画の進行管理、県民に対する食育・地産地消の啓発などに取り組む。</p> <p>①食育県民運動PJ、②山形の食の「語り部」づくり・魅力発信PJ、③給食向け県産農産物利用拡大PJ</p>
県産農産物等輸出拡大プロジェクト	<p>本県食文化等の発信と併せた県産農産物・加工品の海外市場での販路開拓と業務用等の新たな分野への取引拡大に取り組む。</p> <p>①県産米輸出拡大PJ、②さくらんぼ輸出拡大PJ、③県産畜産物輸出拡大PJ、④県産果実加工品輸出拡大PJ</p>
輸出市場開拓・拡大プロジェクト	<p>ASEAN等新規輸出先国の開拓、既存輸出先国における販路拡大に向けた国別の戦略的なプロジェクトの展開と販売拠点の設置への支援に取り組む。</p> <p>①国別輸出アクションプラン策定PJ、②東アジア輸出拡大PJ、③ASEAN輸出拡大PJ、④EU輸出促進PJ、⑤北米輸出促進PJ</p>

輸出基盤対策プロジェクト	生産者、流通事業者、輸出事業者等が輸出するうえで抱える課題の解決に向けた対策の構築と支援等の強化に取り組む。 ①県産農産物等輸出実現PJ、②海外輸送体制確立PJ、③地域商社活用輸出展開PJ、④HACCP等認証促進PJ【関連】、⑤輸出促進に向けた県産農産物検疫対策PJ
来日外国人向け認知度向上プロジェクト	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「山形ブランド」の発信に取り組む。 ①本県食文化等発信PJ、②国際大会事前キャンプ支援PJ、③インバウンド観光との連携プロモーションPJ

11 環境農業

～エコ農産物の付加価値向上と環境や安全に配慮した生産管理の導入促進～

(1) 取組方向

- ◇「環境保全型農業直接支払交付金」を活用して環境保全型農業の面的拡大を図るとともに、戦略的なプロモーションによるエコ農産物に対する消費者の理解促進と購入意欲の喚起
- ◇有機農業の技術開発と生産技術のマニュアル化により生産者及び生産量の拡大を図るとともに、消費者へ県産有機農産物の優位性を科学的数値で示すなど、戦略的なプロモーションによる差別化による付加価値向上
- ◇「やまがた農産物安全・安心取組認証制度」に導入した「山形県版 GAP」の定着による県内生産者の安全・安心の取組みレベルの向上
- ◇輸出促進等に向けたJGAP等の認証GAP取得への支援

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
エコ農産物生産推進プロジェクト	環境保全型農業の面的拡大を図るとともにエコ農産物の理解の醸成とブランド化を推進する。 ①環境保全型農業面的拡大PJ、②環境保全型農業技術開発PJ、③エコ農産物消費者理解促進PJ
有機農産物生産拡大・ブランド化プロジェクト	有機農産物の生産拡大を図るとともに有機農産物の評価向上によるブランド化を推進する。 ①有機農業生産拡大PJ、②有機農業技術開発PJ、③有機農産物評価向上PJ
GAP推進プロジェクト	県版GAPの導入による安全農産物生産を推進するとともに、認証GAP取得支援により輸出等を促進する。 ①山形県版GAP推進PJ、②認証GAP推進PJ

戦略⑤ 畜産振興

国内外の競争激化を踏まえたブランド力の向上や規模拡大等により、畜産業の競争力強化を目指していく。

12 畜産生産

～山形生まれ山形育ちの畜産物生産拡大とブランド力向上～

(1) 取組方向

- ◇畜産担い手の育成・確保を図るとともに、担い手の規模拡大や省力化・生産性向上に資する施設・機械の整備と家畜の導入を支援し、畜産生産基盤の強化を推進
- ◇繁殖雌牛の増頭やET(受精卵移植)技術の活用により和牛子牛の増産を図るとともに、優秀な県産種雄牛の造成等により「総称山形牛」ブランド力を強化
- ◇乳用牛群検定事業の活用等により生産性を高めるとともに、県産牛乳の消費拡大を図り酪農家の所得を向上
- ◇繁殖性や肉質に優れた改良型種豚の作出や県産銘柄豚のPR強化による県産豚肉の評価向上・販路拡大を推進

- ◇やまがた地鶏の民間ベースでの種卵生産体制を構築するとともに、各種イベント出展などの販売促進活動により、生産・販路拡大を推進
- ◇新たな県産畜産加工品の開発により高付加価値化を図るとともに、安全安心な畜産物生産の推進により県産畜産物のブランド力を向上

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト	畜産担い手を育成するとともに、畜産経営の生産基盤強化により生産性や所得の向上を図る。 ①若手畜産担い手育成PJ、②畜舎等生産基盤整備支援PJ、③キャトルセンター設置支援PJ
やまがたの和牛増頭加速化プロジェクト	繁殖雌牛増頭、県産種雄牛の造成等により、優良な県産和牛子牛の増産を推進する。 ①和牛繁殖雌牛増頭PJ、②優良県産種雄牛造成PJ、③ET活用和牛子牛増産PJ、④総称山形牛ブランド向上PJ
酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト	酪農の生産性向上や生乳消費拡大により、所得の向上を図る。 ①乳用牛ベストパフォーマンス支援PJ、②県産牛乳等消費拡大PJ
県産銘柄豚生産・販路拡大プロジェクト	繁殖性や肉質に優れた種豚を作出することにより、県産銘柄豚の生産拡大と販路拡大を推進する。 ①改良型種豚作出PJ、②県産豚肉銘柄化推進PJ
やまがた地鶏生産・販路拡大プロジェクト	やまがた地鶏の民間における種卵生産体制を確立することにより、生産拡大と販路拡大を推進する。 ①やまがた地鶏生産拡大PJ、②やまがた地鶏販路拡大PJ
やまがた畜産ブランド推進プロジェクト	新たな県産畜産加工品の開発や安全安心な畜産物の生産を推進する。 ①やまがた畜産品高付加価値化PJ、②安全安心なやまがた畜産物推進PJ

13 耕畜連携・自給飼料

～耕種農家と畜産農家の連携による県産飼料の生産・利用拡大～

(1) 取組方向

- ◇耕畜連携により飼料用米や稲発酵粗飼料等の生産を拡大し、県産飼料の利用を促進
- ◇飼料用米生産の本作化に向けた体制整備の構築と多収専用品種「ふくひびき」等による安定的多収技術の普及【関連】

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
県産飼料生産拡大プロジェクト	飼料基盤の整備や耕畜連携の強化等により、県産飼料の生産拡大を推進する。 ①県産飼料基盤整備PJ、②飼料用米生産・利用拡大PJ【関連】、③耕畜連携推進PJ
【関連プロジェクト】 需要に応じた米生産対策推進プロジェクト	行政による生産数量目標の配分廃止を見据え、需要に応じた米生産のあり方を検討するとともに、飼料用米等の生産・利用の拡大に取り組む。また、正確な米の作付面積把握のため、統計かい離の解消を図る。 ①飼料用米生産・利用拡大PJ【関連】、②直播等低コスト生産推進PJ【関連】、③需要に応じた米生産推進PJ【関連】、④統計かい離解消PJ【関連】

戦略⑥ 林業振興

県民総参加で森林資源を利活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、林業・木材産業の収益性の向上を目指していく。

14 木材生産・加工

～木を育て・使い・再び植える「緑の循環システム」の構築～

(1) 取組方向

- ◇県民総参加で森林資源を利活用する「山形モデル」の構築
- ◇条例に基づく森林ノミクスを推進するための推進体制の構築
- ◇林業と工業の連携「林工連携」を推進するための支援体制の構築
- ◇川上から川下までの事業者がバリューチェーンでつながり収益性の高い経営を実現するシステムの構築
- ◇県産木材の生産拡大に向けた、森林境界の明確化、路網の計画的な整備、高性能林業機械の導入、森林施業の集約化等の推進
- ◇持続可能な林業経営を推進するための間伐等の森林整備、計画的な伐採、再造林を推進するための支援体制の構築
- ◇木材加工施設等への県産木材(原木)の安定供給、需要者ニーズに応じた品質の確かな製品の生産、木質バイオマス供給施設整備への支援
- ◇林業事業体の体質強化に向けた人材育成や本県独自の林業士制度を活用した、県立農林大学校林業経営学科の学生や新規就業者支援等の実施

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
やまがた森林ノミクス推進プロジェクト	「緑の循環システム」を構築し、「やまがた森林ノミクス」を一層推進する。 ①収益性の高いバリューチェーン構築PJ、②やまがた森林ノミクス推進ための条例に基づく推進体制促進PJ、③林工連携推進PJ
やまがた森林ノミクス川上対策推進プロジェクト	県産木材の生産拡大に向けて、森林の境界を明確化し、森林経営計画を策定して施業の集約化を図り、計画的な路網整備、高性能林業機械の導入、主伐・間伐の実施、主伐後の再造林等の川上対策を一層推進する。 ①境界明確化推進PJ、②施業の集約化推進PJ、③林内路網整備促進PJ、④高性能林業機械普及推進PJ、⑤間伐推進PJ、⑥主伐・再造林推進PJ、⑦森林保全促進PJ
やまがた森林ノミクス川中対策推進プロジェクト	木材加工施設等への県産木材の安定供給を図るとともに、需要者ニーズに応じた品質の確かな製品の生産の推進や、木質バイオマス供給施設整備への支援等の川中対策を一層推進する。 ①県産木材の安定供給推進PJ、②木質バイオマス利用促進PJ
林業人材育成プロジェクト	森林ノミクスを支える人材を確保するため、県立農林大学校林業経営学科において次世代リーダーを育成するとともに、林業事業体の木材の生産体制の強化を図る。 ①林業の新規就業促進PJ、②県林業士制度推進PJ、③フォレストリーダー等育成強化PJ

15 木材利用

～森林資源を県民総参加で利活用する「山形モデル」の構築～

(1) 取組方向

- ◇県民総参加で森林資源を利活用する「山形モデル」の構築【関連】
- ◇条例に基づく森林ノミクスを推進するための推進体制の構築【関連】
- ◇林業と工業の連携「林工連携」を推進するための支援体制の構築【関連】
- ◇川上から川下までの事業者がバリューチェーンでつながり収益性の高い経営を実現するシステムの構築【関連】
- ◇「やまがたの木(A材)利用拡大戦略」に基づく県内外でのA材の販売促進・市場拡大
- ◇県産木材の率先利用による民間施設の木造化・木質化の推進

◇木質系耐火部材やCLT（直交集成材）などの新たな県産木材の利活用の促進

◇薪や燃料用チップなど地域の木質バイオマスの熱利用の促進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
【関連プロジェクト】 やまがた森林ノミクス 推進プロジェクト	「緑の循環システム」を構築し、「やまがた森林ノミクス」を一層推進する。 ①収益性の高いバリューチェーン構築PJ【関連】、②やまがた森林ノミクス推進ための条例に基づく推進体制促進PJ【関連】、③林工連携推進PJ【関連】
やまがた森林ノミクス 川下対策推進プロジェクト	県内外における県産木材の販路拡大・販売促進に向けて、公共及び民間施設の木造化・木質化の促進や消費者向けの普及啓発等の川下対策を一層推進する。 ①木造住宅・木造公共施設整備支援PJ、②県産木材率先利用推進PJ、③木質系耐火部材等新たな県産木材の利活用促進PJ、④オリ・パラ地域材利用促進PJ、⑤木質バイオマス熱利用促進PJ

16 特用林産

～「森の恵み」を活用した中山間地域での所得向上と雇用の創出～

(1) 取組方向

◇山菜・きのこのブランド化戦略に基づき、「山形県産の山菜・きのこは日本一」との評価獲得（認知度、知名度など）を目指し、生産振興から加工、流通・販売対策までの施策を総合的に推進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
やまがた山菜・きのこ 日本一産地化プロジェクト	生産・加工・流通販売まで施策を総合的に推進することにより日本一の「山形ブランド」の定着に取り組む。 ①山菜・きのこ類の生産振興PJ、②山菜・きのこ流通販売・認知度向上PJ、③山菜・きのこによる観光・交流拡大PJ

戦略⑦ 水産振興

豊かな海づくり大会を契機とした水産業のさらなる振興を図り、ブランド化や消費拡大による漁業者の所得向上を目指していく。

17 海面漁業

～ブランド化と庄内浜水産物の消費拡大による漁業者の所得向上～

(1) 取組方向

◇庄内浜産魚介類の安定生産のため、①厳しい経営環境においても持続可能な経営体の育成と新規就業者の確保、②漁場や漁港施設など水産インフラの整備、③栽培漁業や資源管理による水産資源の維持・増大による生産基盤の維持・強化を推進

◇漁業者の所得向上のため、①鮮度保持技術や蓄養技術の推進により庄内おぼこサワラに続く新たな魚種のブランド化、②漁業者と水産加工業者が連携した低利用魚の加工支援、③1.5 次加工の推進等による水産物の高付加価値化を推進

◇庄内浜水産物の県内における利用拡大を図るため、①「全国豊かな海づくり大会」を契機とした庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクトの展開による積極的な情報発信とPRの強化、②「魚いきいき清流山形県民運動」の継続展開による魚食普及を推進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
海面漁業生産基盤強化プロジェクト	漁業就業者の確保や持続可能な経営体の育成、老朽化した漁船や漁港施設の更新など水産関係のインフラ整備による機能回復、栽培漁業や資源管理による水産資源の維持・増大に取り組む。 ①水産業人材育成PJ、②漁業のトップランナー育成PJ、③水産資源を育む水産環境保全・創造PJ、④養殖活性化PJ

県産水産物付加価値向上推進プロジェクト	鮮度保持技術や蓄養技術の推進により庄内おぼこサワラに続く山形ブランドの創出、漁業者水産加工業者が連携した低利用魚の加工支援と1.5次加工の推進等による県産水産物の付加価値向上に向けて取り組む。 ①トップブランド形成促進PJ、②蓄養技術の推進PJ、③大型クロマグロの漁獲安定化PJ
県産水産物利用拡大プロジェクト	「庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト」の展開により、県内消費拡大に向けた積極的な情報発信とPRの強化、魚とふれ合う機会の提供による魚食普及の推進に取り組む。 ①地域特産を活かした水産加工品開発への支援PJ、②県内消費拡大PJ

18 内水面漁業

～内水面漁業振興による地域活性化～

(1) 取組方向

- ◇内水面漁業の振興による地域活性化のため、①観光を含めた地域振興と連携した遊漁者の確保等による内水面漁協の経営基盤の安定化、②水産資源の維持・増大、③漁場環境の保全を推進
- ◇内水面養殖の新養殖品種開発による養殖業の振興、アユ等地域の特産加工品の開発による地域活性化を促進

(2) 主なプロジェクトの概要

総括プロジェクト名称	総括プロジェクトの方向性と主な構成プロジェクト
内水面漁業振興プロジェクト	観光を含めた地域振興と連携した遊漁者の拡大等から内水面漁業の経営基盤の安定化による水産資源の維持・増大、カワウ・ブラックバス等による漁業被害の低減、新しいニーズに対応する養殖新品种開発に取り組む。 ①遊漁者増加対策PJ、②魚の棲み良い環境整備PJ、③オリジナル大型ブランドマス開発PJ